



古田 耕

Dr. Koh Furuta, MD, PhD

DIRECTOR-AT-LARGE - Indo-Pacific Rim, ISBER

CIBER 代表理事

連絡先

電話番号:
03-6265-1947

Web サイト:
<https://ciber.or.jp/ja/>

メール:
info@ciber.or.jp

ISBER DAL IPR Report #5 : 2019.12.2

ISBER DIRECTOR-AT-LARGE - Indo-Pacific Rim の活動報告です。

11/1 より 11/30 までの会議：（時間はすべてリヨン時間です。）

- ISBER BOD-CC WS, 2019.11.2, Minneapolis

ISBER の理事および委員会代表が一同に会しての親睦を兼ねての会議が行われました。

- ISBER BOD, 2019.11.3, Minneapolis

ISBER の理事のみの会議が行われました。

- ISBER 2019 REGIONAL MEETING, 2019.11.3-5, Minneapolis

ISBER の北米中心の地域学会が行われました。

- ISBER IPR DAL-RA meeting, 2019.11.27

ISBER のアジア太平洋地区の理事と Regional Ambassador の会議です。

各会議の概要：

1. IPR region DAL-RA (Regional ambassador) 会議

- a. India: 2月に行われる National Liver Disease Biobank の進捗状況が報告されました。
- b. Australia: バイオバンク関係者へのアンケート調査が行われたことが報告されました。また、Australia ではバイオバンク分野で ISO と CTRNet という二つの認定の枠組みが動いていることも報告されました。二つを比較すると ISO はより産業志向であり、CTRNet はより研究教育志向であるとの説明がありました。
- c. Japan: アジア太平洋地区で特に問題となる気温、換気、湿度、地震に関する Workshop を Anaheim2019 で行う提案をしたことがあらためて報告されました。
- d. India では病理検査室の試料保存はバイオバンクとは呼ばないこと、Australia からは病理検査室の試料保存はバイオバンクとは呼んでもバイオバイキングとは呼ばないことが報告されました。
- e. 研究用のバイオバンク試料をある患者の診断目的で利用できるかという問いかけが米国で起こったことが ISBER Regional meeting で報告されたが同様の事が日本や Australia でも起こっていることが報告された。来年 1 月に TC276、TC212、ISBER の有志が集まって議論する予定であることを古田が報告した。

2. ISBER Regional Meeting Minneapolis

- Symposium 1 では、バイオバンクの Centralization / decentralization model について紹介があり、さらに CAB (Community advisory board) の参加についての発表があった。
- Symposium 2 では、Biosensor---continuous biomarker monitoring について紹介があった。
- Symposium 4B では GDPR (General Data Protection Regulation) および HIPAA (Health Insurance Portability and Accountability Act) に関する議論が行われた。
- Educational Workshop1 では Broad consent の種類や Secondary research の可能性について議論された。

- Contributed paper session1 では、22758 に関する発表が ISBER ISO Team からなされた。カナダのグループからは、ISO 20387, CTRNeT の mapping に関する発表がなされた。
- Educational Workshop3 では、ISBER ISO Team から Standards とそれをサポートする ISBER Tools や他の リソースに関する発表があった。これには、世界で最も早く ISO20387 の認定をおこなった米国の A2LA(Accreditation 団体)の代表の発表も含まれていた。
- 学会中、CIBER と ISBER 共催の会議開催について打ち合わせが行われた。そこでは、アメリカがん学会方式を採用し、small and compact かつテーマを絞った meeting を trial meeting としてまず行ってみる。この経験をもとに可能性があるならば将来の本格的な ISBER 大会を開催する。時期は 2021 年 12 月から 2022 年 3 月とする。official language を日本語にするのか英語にするのかの検討を行う。さらに、ISBER の本格的な大会は regional meeting として日本ではなく東南アジアで行う方が参加者の面から考えても開催費用から考えてもより効果的であることも合意された。

3. 今後の学会予定確定分

- Anaheim, USA, April 14-18, 2020: Annual Meeting & Exhibits
- Atlanta, USA May 10-14, 2021: Annual Meeting & Exhibits

4. 今後の学会予定議論中：

- 2022 年は Hawaii もしくは South Africa の可能性が議論されています。

以上